

## 募 集 要 項

氏 名： 上 野 継 義	研究室：第4研究室棟4K303
専攻分野：アメリカ経営史（アメリカの人事管理；安全運動の日米比較経営史）	
演習テーマ： 歴史と理論を学ぶ 立派な文章が書けるようになること	E-mail：ueno@cc.kyoto-su.ac.jp Webpage： <a href="http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~ueno/students/seminar.html">http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~ueno/students/seminar.html</a>

### 演習内容・主なテキスト

知識そのものよりも、知識を獲得するための方法を学びます。書物を読んで独学ができ、自分の文章が書けるようになることを目指します。大学生活を有意義に過ごす術を一緒に考えてゆきましょう。

このゼミナールは編転入学の学生だけを募集しています。いま在籍している学生も編転入学の学生です。

テキストは、学生の意向を踏まえて、話し合っ決めていきます。定まったものではありません。

=====

#### <演習1>

例年、さまざまな分野の書物を輪読し、知識の獲得の仕方を学んできました。私は、大学1年生の頃、梅棹忠夫氏の『知的生産の技術』という本を読みましたが、いまでも印象深く思いたす一節があります。学校というところは、「知識は教えるけれど、知識の獲得の仕方は、あまり教えてくれない」と。この書物に刺激を受けて、知識の獲得の仕方（方法）を自分なりに工夫して、私はそれを学問研究に応用してきました。このような方法は、学問だけでなく、日常生活のあらゆる部面に応用できるはずです。

#### <演習2>

研究報告（プレゼンテーション）の仕方を学びます。研究報告とは理を尽くして聴く人を説得することですが、そのためには自分自身のあやつる論理や説明に自分自身が納得できなければなりませんね。ミルトン・フリードマンという経済学者はこんなことを言っています。「自分を本当に説得できるのは、自分以外にはない」と。

#### <演習3>

学生一人ひとりが、それぞれの問題関心に即して研究をすすめ、自分の得意技を磨いていただきます。その際、文章の書き方について、とくに力を入れて学ぶことにいたしましょう。どのようなことがらであろうと、それを自分の言葉で文章に表すことができたとき、はじめて「理解した」と言いうるのであり、そのようにして獲得した知識でないと実際に役立ちませんから。

#### <演習4>

4年次には、自分の好きなテーマで卒論をまとめます。私は学生時代にシモーヌ・ヴェーユというフランスの思想家に興味をもちました。ジャック・カポーという人のまとめたヴェーユの評伝を読んだのもその頃です。その中にこんな台詞がありました。「なにか言える人間になるためには、あらゆるつらい仕事を一年間は修業しなければなりませんし、当て推量で話してはならないのです。」なかなか厳しい言葉ですが、真実をついています。どのような分野であれ「何か言える人間」になって、大学を卒業してほしい。

#### <卒論について>

卒論はひとりひとり自分の好きなテーマで執筆することになります。必ずしも経営史のテーマである必要はありません。

ゼミの卒業生はさまざまなテーマで卒論をまとめてきました。次のウェブサイトに論文タイトルをいくつか挙げています。

<http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~ueno/students/seminar/paper.html>

=====

#### <ゼミのすすめ方>

ゼミナールの年間スケジュールは学生が自ら決めます。ゼミナール報告会への参加、卒論の作成という区切りになるイベントがありますので、それに向けて学習計画を立てることになりますが、あくまでも学生の自主性にまかされています。

日々のゼミナールは、時間どおりにはじめて、時間どおりに終わります。私が学生の頃には「自主ゼミ」なるものを組織して、毎週3、4時間くらい、教員抜きで研究報告とディスカッションの場を用意したものです。学生だけのゼミ旅行も計画しました。ですが、それもこれも自分たちで決めればよいことです。新しいゼミナール文化を創りあげていってください。

=====

#### 教員からの要望

大学生活を有意義に過ごし、クリエイティブで魅力的な人になってほしい。そのためには、学問にも、遊びにも、真剣に取り組むことです。

ゼミナールを自分自身が成長する機会としておおいに役立ててください。

ゼミ活動に際しては、他者（ひと）が自分に何をしてくれるかではなくて、自分がどのように貢献できるのか、それを第一に考えてください。これが自分の才能を磨く最良の道です。

#### 教員の自己紹介

京産大の同窓会報に載せた一文がありますので、それを眺めてください。

<https://ksuaa.jp/teacher/412>

=====

#### ゼミ生のひと言

- ◆ 「考えた末、アフリカの NGO 団体に一年間現地駐在員として参加する事にしました。幸い受け入れ先も見つかったため、新学期早々4月10日に出発の予定になっております。帰国は来年の今ごろになりそうです。ところで、勝手ながら、論文の指導は帰国後お願いしたく思っています。論文は書いて卒業したいので、是非覚えておいてもらえないでしょうか。というわけで、来年の今ごろ知らん顔して伺わせていただく予定です。以上、単位習得のお礼と報告をかねてお知らせします。産大上野ゼミが盛り上がることを祈りつつ、次の桜の時期にお目にかかります。」(森本龍一)
- ◆ 「富良野岳～十勝岳を縦走した時に、山の素晴らしさや、歩くことでしか知る事の出来ない自然を体験する事が出来、これがきっかけになって今回は山登りが中心の旅になりました。利尻岳、斜里岳への登山、知床五湖のトレッキング、知床連山の縦走、礼文島の縦断トレッキングと楽しんでできましたが、北海道の自然の濃さや深さを実感しました。知床連山の縦走時には9月20日にもかかわらず初雪が積もり、快晴で絶景の中での冬山登山になりました。」(斎藤達朗)
- ◆ 「昨日ベトナムから無事帰国しました。一番よかったのは、メコン川を船で下って、ミトーという辺りを訪れたことです。……メコン川と共に生きる人々や、メコンの自然の強さを生で感じられたことは貴重な体験になりました。」(奥田伊代)

=====

### ゼミ生からの紹介

- ◆ 研究内容もゼミ計画もすべて自由。私たちが決めます。なにか本を読むと先生やゼミ員との話が捗ります。(いわ)
- ◆ 毎週それぞれ本を読んできてそれについてみんなで話したり、先生からのいろんな為になる話、面白い話や知らなかったことを聞け、充実した90分を味わうことができるゼミです！(くま)
- ◆ 私は秋からゼミを移籍して、上野ゼミに来ました。ゼミは少人数で先生とゆったりと活動しています。自分の好きなことについて研究できて、自由にやりがいのあるゼミ活動だと思うので、一度ゼミの説明会で上野ゼミに顔を出すことをお勧めします。このゼミでは自分の研究テーマに関する本を自分で選んで、その本を読むので、本好きの人や熱心に好きなテーマに関して研究して卒業論文を書きたい人にはお勧めです。私自身は、あまり本を読むことは好きではなく苦勞はしていますが、私のようにこれを期に自分を変えたいと思う諸君たちには良いゼミだと思います！先輩などの噂などには流されず、是非とも上野ゼミに顔を出していただけたら良いと思います。(みはら)

=====

### 履修希望科目

経営史入門、外国経営史、国際比較経営史、日本経営史